

令和2年 8月17日

学生の皆さんへ

奈良教育大学

副学長（教育担当）宮下俊也

### 課外活動の再開の見通しについて

課外活動の再開については、昨今の感染者数の増加、特に大学生を含む若年層の感染割合が多い状況、また高校や大学での部活動で、感染が認められ始めていること等を踏まえ、この波が下降する時期を再開の目途としています。現時点では、10月1日からレベル1-2への引き下げを予定しているところです。コロナの完全終息やワクチン・治療薬の完成を待つものではありません。今後、近いうちに、コロナと付き合っていかなければならない「with コロナ期」を迎えますが、その時の活動方法を、今から考えておいていただけたらと思います。

本学では特に慎重になっていることの原因として、教育実習があります。先日、発出した「教育実習における新型コロナウイルス感染対策に係る諸注意（第3報）」にも示しましたが、本学の附属学校は、本学学生のために、最大限の対策を取ってくれています。保護者に対しても、万全の対策を講じる旨通知し、理解を得てくれました。これはひとえに、本学学生に対して「よい教員として育ててほしい」という強い願いと期待に他なりません。大学としては、また実習生としては、そのことに応えなければなりません。サークル内で、またサークルの学生が万が一感染・発症したとしても、大学も附属学校もそれを非難することはしません。その感染源がその学生やサークル内にあるのかどうかもわからないからです。しかし、感染対策の具体や、実習を前にしてなぜサークル活動を許可したのか、は必ず問われるものと思いますし、「奈良教育大生が感染した」となると、そのことだけで、「実習を中止せよ」との声が寄せられてしまうことは、想像に難くありません。インフルエンザのように、その感染者が出たくらいで大きな影響を与えないのは異なり、現時点では、そのように世間の理解が熟していないことは、とても残念ではありますが、今は、やむをえないものと考えます。

実習とサークル活動と、どちらが大事であるかという問題ではありませんが、今は、万全を期すためにこのような対応を取っていることを、重ねてご理解ください。大学も、引き続き、1日も早い活動再開に向けて、検討を重ねて参ります。

また、各クラブ・サークルが所属している連盟等に対し、連盟主催試合の参加にあたって要望があり、大学からも連盟等に申し入れてほしい場合は学生支援課にご相談下さい。